

## 講演会「東アジアの平和と日本国憲法第九条」報告

### 加々美光行『東アジアの平和をどうつくるのか』

#### 『米国の覇権と日中韓新政権のゆくえ』講演レジュメ

(掲載にあたって) 加々美先生には、6月22日当日には、6ページにわたるレジュメで、「はじめに」にあります「改憲」論を生み出す五つの要因についてお話をいただきました。しかし、紙面の都合により、中心にお話いただきました(1)の最後の部分と(2)を掲載し、あとは省略させていただきました。(事務局)

はじめにーアジア安全保障の当面の基本的枠組み

#### 「改憲」論を生み出す五つの要因

- (1) アメリカの地政学的安保戦略の変遷⇔中国の経済・軍事大国化
- (2) 朝鮮半島の「核」「ミサイル」「拉致」問題⇔北朝鮮国家の瀬戸際外交
- (3) 領有権問題：①北方四島②竹島③東シナ海尖閣諸島④南シナ海西沙・南沙諸島
- (4) 歴史認識問題：残余の戦後処理(日中・日韓・日台・日菲)
- (5) 排他的民族主義の台頭

#### 五つの要因に共通する力学

安全保障上の中国脅威+北朝鮮の脅威⇒日本の防衛力強化の必要  
⇒自衛隊の国防軍化⇒メディアの中立性の衰弱

#### 【1】アメリカの地政学的安保戦略の変遷(2013年5月まで)

オバマ政権以前、1991年から2010年までのアメリカの戦略 (略)

オバマ政権成立時の安保戦略 (略)

#### 2011年から2012年のオバマ政権の安保戦略

「両洋戦略=二正面作戦の撤回⇒アジア太平洋重点戦略⇒「中国包囲戦略」へ

\*2011年5月段階で判明したこと。

：将来的に2013年から2022年までに1・2兆ドルの削減が必要。その半分は国防費。

\*2011年11月16日キャンベラでオバマ・ギラード米豪首脳会談。

：「ダーウィン基地の米海兵隊を当面250人、将来的に2500人駐留させる」

\*2011年11月17日オバマ、オーストラリア議会で演説。

：「(全体的な財政削減国防費削減の中で)アジア太平洋への米軍のプレゼンスを強化」

\*2012年6月パネッタ米国防長官、シンガポールの第11回アジア安保会議で「アジア太平洋へのリバランス」政策。米海軍艦船のプレゼンスを従来の「大西洋5対太平洋5」から「大西洋4対太平洋6」にリバランス

⇒「中国包囲」戦略。第1列島線。第2列島線。

## 《2》 今回の米中首脳会談が東アジア安保にもたらすもの

### 米中首脳会談(6月7日—8日)について、事前の米中プレーンの見方

\*アメリカの見方:Richard N Haass(President of Council on Foreign Relations) "The Irony of American Strategy" May/June Foreign Affairs

- ①アメリカ外交の重点は今もなお中東にある
- ②しかし世界の外交の重心は既に中国に傾斜し始めている。
- ③「アジア太平洋へのリバランス」政策は今後も維持し、その限り同盟国に対する侵略は防止する
- ④同時に同盟国がアメリカの支援をあてにするあまり(外交版モラルハザードとなるような)放縦な振る舞いをすることがないよう、同盟国への無条件の支持は行わない。
- ⑤アジア太平洋地域において、一方で中国との可能な限りの協力を行い、他方でアメリカのこの地域の軍事プレゼンスを保持することによってこの地域の安全保障を担保(hedge)する

※このHaassの指摘は、まさに日本の対米依存の安保政策とりわけ尖閣をめぐる対中政策が、日中両国間に局地的軍事衝突を起こす可能性があることを念頭に置いていると言える。

\*中国の見方:時殷弘(中国人民大学国際関係学院教授)「中米大国関係の将来図に関する想定」『文化縦横』2013年4月22日

- ①アメリカの2011年以來の軍事削減と地政学的アジア重心移動(リバランス)戦略は基本的には変わらないと想定。
- ②中国の海軍・空軍・ミサイルの急速な軍事力強化、軍事大国化は、中国民衆の「大国民族主義」、及び、「中華民族の偉大な復興」のスローガンと高度に結びついている。
- ③アメリカの地政学的(リバランス)的戦略と中国の民族主義的な軍事力強化は相互にあい矛盾する。この矛盾を戦略的に緩和しない限り、米中関係を「新型の大国関係」に進展させることは出来ないと想定。

\*米中首脳会談(8時間)が東アジアの安全保障にもたらしたもの

- ①アメリカは2011年以來の地政学的リバランスは変えない。
- ②アメリカの同盟国への支援はこの地域で中国との局地的軍事紛争を回避するために、軍事紛争を誘発する無条件の支援ではない。またそれは「中国包囲」のためではない。
- ③中国は東シナ海、南シナ海で関係諸国と軍事的紛争が生じないように行動する。
- ④中国は北朝鮮の「非核化」及び「六か国協議」への復帰のために影響力を行使し、その点で東アジアの安全保障に応分の貢献を確約
- ⑤中国は米中関係を、1「新型の大国関係」へと進展させることを望み、アメリカは事実上それを容認。

《3》朝鮮半島の「非核・ミサイル・拉致」問題と東アジアの平和 (略)

《4》結論にかえて：日中関係、東アジアの平和と憲法9条 (略)